



旧陸軍北部軍司令官の公邸官舎として建設された建物。赤いレンガが特徴的だ。

軍隊の町として知られた月寒のあゆみを学ぶ

豊平区

きょうとしりょうかん

つきさっぷ郷土資料館

4年間だけの司令官官邸

資料館の建物は昭和16年(1941)に旧陸軍北部軍司令官の公邸官舎として建てられたレンガ造りの洋館。太い柱が支える正面中央の車寄せが特徴的である。戦後は占領軍に接収され、その後昭和25～58年までは北海道大学の学生寮として使用されていた。昭和60年(1985)から郷土資料館として活用され、増築した棟を合わせて約4,000点もの資料を展示・保存している。

展示室は4カ所あり、第1号展示室は開拓期がテーマだ。明治政府が整備した千歳道(現在の国道36号)沿線に岩手県から44戸

(185名)が移住したのが明治4年(1871)。その後他県からの移住者も続き、当時の造材用具や農機具、馬具などを展示している。

2階の第2展示室では、明治29年(1896)に第七師団の兵営が置かれて以来、発展していった月寒の歴史をひもといていく。明治32年(1899)から月寒に置かれた第七師団歩兵第25聯隊^{れんたい}は、日露戦争時に二〇三高地を陥落させた主力部隊である。昭和15年(1940)には国内が東部、西部、中部、北部の4軍管区に区分。現在の月寒中学校の敷地に配置された北部軍司令部は、北海道・東北・千島列島・樺太を統括する重要な役割を担っていた。

コレも見どころ

現在の月寒高校校庭で撮影された、歴史に残る一枚

第2展示室に額装で掲げられた一枚の写真。昭和11年(1936)に昭和天皇を迎えて実施された、第七師団と第八師団の対抗軍事演習(陸軍最後の大演習)の折の記念写真だ。昭和天皇を中心に、各皇族方、軍上層部、将校団が並び、数え切れぬほどの人数に息をのむ。この場所は現在の月寒高校のグラウンドで、背景に写る木造の建物は第25聯隊の兵営である。



昭和17年(1942)に着任した最後の軍司令官・樋口季一郎中将は、ナチスドイツの迫害を逃れてソ連領オトボルで立ち往生していた数万人^{きいちろう}のユダヤ人難民に満州通過を認め、逃避させたとされている。また昭和20年(1945)、終戦の日の翌々に占守島に突然侵入してきたソ連軍に対し、激闘の末にソ連軍を撤退させるなど、その後のソ連による北海道侵攻と分割の阻止に繋がった。展示されている樋口將軍の直筆の書や遺品類が、太平洋戦争末期の北海道の命運を物語る。

さらに月寒の歴史を記録した古文書や写真が並ぶ第3展示室や、大正昭和期の生活道具、定山溪鉄道関連資料が並ぶ第4展示室もあり、見学の際は時間に余裕を持って出かけた。

※逃避させた人数については諸説あり。



北部軍の兵隊や将校たちが着用していた軍服や軍靴が並ぶ。



北部軍(第5方面軍)最後の司令官、樋口季一郎中将が愛用した外套とスーツケース。

住 所：豊平区月寒東2条2丁目3-9
電 話：011-854-6430
休 館 日：12～3月冬期休館、
4～11月の月・火・木・金・日曜
観 覧 時 間：10:00～16:00
ア ク セ ス：地下鉄東豊線「月寒中央」駅
1番出口から約900m
資料収蔵数：約4,000点
開 館 年：昭和60年(1985)